

愛知県感染症情報

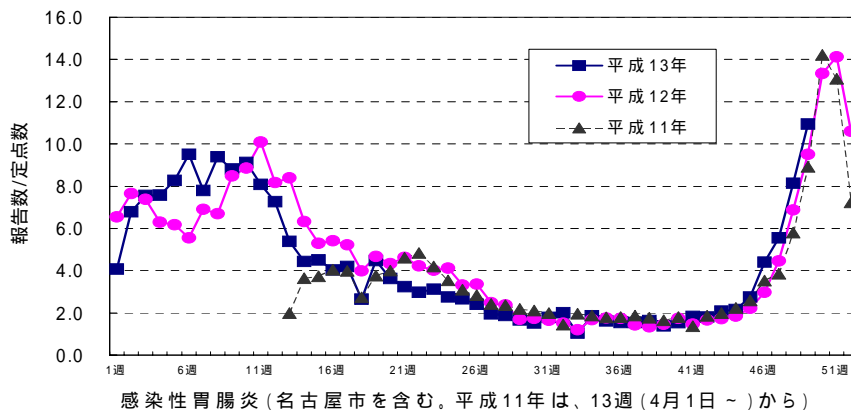
平成 13 年第 49 週 (12 月第 1 週)

(コメント)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は流行中で依然報告数が増加していますので注意してください。これらについての詳しいことは、愛知県衛生研究所のホームページ

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>) をご覧ください。

インフルエンザは、一部地域で流行が始まっていますので注意してください。



(定点の先生方からのコメント)

- 尾張西部地区
 - ・ 病原性大腸菌感染者 O1 (6 ヶ月男、2 歳女、5 歳女、4 歳男) O6 9 ヶ月男、O18 3 ヶ月女
(尾西市 城後小児科)
 - ・ R S 様の咳が増えてきました。病原性大腸菌 O6 家族感染例有り (1 歳 2 人、3 歳、9 歳、31 歳、33 歳)、O6 3 歳。
(犬山市 武内医院)
 - ・ 急性胃腸炎多発、嘔吐のみの患者多し。水痘多し。伝染性紅斑も 4 例あり。
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)
 - ・ 嘔吐を伴う胃腸炎が流行中です。A 群溶連菌感染症も小流行しています。流行性耳下腺炎は減少してきました。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)

- ・ マイコプラズマ肺炎 39歳女
(師勝町 田中クリニック)
- ・ マイコプラズマ肺炎 12歳男
嘔吐下痢を伴った胃腸かぜが流行して居ります。
(春日町 丹羽医院)
- ・ マイコプラズマ肺炎2名 (30歳女、66歳男)
溶連菌感染症増えたが、インフルエンザウイルス抗原陽性者なし。
(新川町 三輪医院)
- 尾張東部地区
 - ・ 相変わらず、マイコプラズマ感染 (肺炎、3歳女、4歳女、5歳女) が多く見られます。ウイルス性胃腸炎では、ロタ陰性です。
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
 - ・ 溶連菌感染症、流行続いています。手足口病、まだ散発していません。今週から水痘が増えてきました。マイコプラズマもまだ流行続いています。(家族内感染、同一施設内での流行もあり) その他、ヘルペス歯肉口内炎、成人、学童共に嘔吐を主訴に来院する症例多いです。
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
 - ・ 帯状疱疹広範囲で入院要する 8歳男
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
 - ・ インフルエンザBが1人でした。
(春日井市 片山こどもクリニック)
 - ・ 今週は感染性胃腸炎が非常に多くみられました (小児～成人まで)。水痘も多いです。
(春日井市 朝宮こどもクリニック)
 - ・ 今週は発熱のある咳嗽の強いかぜ症候群と嘔吐のある胃腸かぜが多発しています。
(春日井市 かちがわ北病院)
 - ・ 嘔吐を主徴とする胃腸炎が急増しました。現在インフルエンザ様疾患はあまり見られません。
(小牧市 志水こどもクリニック)
 - ・ インフルエンザ流行なし。
(小牧市 小牧市民病院)
 - ・ マイコプラズマ 2歳と4歳の女、4歳男
(小牧市 鈴木小児科)

● 西三河地区

- ・ インフル A・B - クイック*陽性 1歳男B(+) 2人
病原性大腸菌 O1 10歳男
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
インフル A・B - クイック : A 型及び B 型インフルエンザウイルスを判定する。
- ・ マイコプラズマ肺炎 5歳男。サルモネラ SP O7 4歳女
溶連菌感染症 増加
(豊田市 やふそ小児科)
- ・ 病原性大腸菌 O1 VT1・2(-) 4歳男
(岡崎市 竜美ヶ丘小児科スズキ医院)
- ・ 病原性大腸菌 O6 VT(-) 9歳男、O126 VT(-) 5歳女
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ 病原性大腸菌 O25 3ヶ月男、異型肺炎(3歳男、5歳女)
(岡崎市 川島小児科水野医院)
- ・ 病原性大腸菌 O1 VT1(-) 2歳、サルモネラ O4 7歳
(幸田町 とみた小児科)
- ・ 溶連菌感染症と嘔吐を主症状とする胃腸炎が目立ちます。
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ 咽頭結膜熱 5歳女(アデノチェック陽性)、嘔吐と水痘が増加
(西尾市 やすい小児科)
- ・ 嘔吐中心の感冒性胃腸炎が特に目立ちました。
(西尾市 山岸クリニック)
- ・ 感染性胃腸炎が大流行中です。
(三好町 三好町民病院)

● 東三河地区

- ・ インフルエンザ流行してきました。A 型 11 名、B 型 2 名(10 歳男、9 歳女)、A 型 B 型混合感染 1 名(1 歳男で 17 日前にワクチン 1 回接種済み)
(豊橋市 野村小児科)
- ・ インフルエンザ 2 名は先週と同じ学校(欠席者多いとの話でした)。
(豊橋市 富田小児科)
- ・ ウイルス性胃腸炎が大流行です。
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
- ・ 先週に引き続き感冒性胃腸炎が目立つ。溶連菌感染症は、同一小

学校のクラスで2名、他は、散発例です。

(田原町 かわせ小児科)

(1～3類感染症の発生状況)

細菌性赤痢患者4名

- ・ 津島保健所から報告の42歳男(11/29発病、11/30初診、12/3診定)。39歳女(11/30発病、11/30初診、12/6診定)。10ヶ月男。(12/4発病、12/4初診、12/6診定)。菌型はすべてゾンネ 相。
- ・ 豊田市保健所から報告の54歳女。11/30発病、12/3初診、12/5診定。菌型はゾンネ 相。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

ツツガムシ病患者1名。

第47週(11月19日～11月25日)の4類感染症の全国状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は年末のピークに向け患者報告数の増加が見られている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は例年の同時期よりやや多くなっており、都道府県別では、山形県で報告数6.8と多くなっている。感染性胃腸炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、熊本県(18.2)、福岡県(13.7)、宮崎県(13.6)、山口県(12.8)などである。手足口病は新潟県で定点当たり2.0の報告がある。伝染性紅斑は非流行期であるが、過去5年間の同時期と比較すると定点当たり報告数がかかなり多くなっている。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、第19週よりここ10年間で最大の定点当たり報告数が持続している。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、石川県(9.1)、長野県(5.7)、富山県(5.2)、沖縄県(4.1)などである。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

平成 13 年 12 月 13 日

WHO 疫学週報抜粋抄訳

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

2001 年 11 月 16 日号 (76 巻 46 号)

事務的なミスで 42 ~ 45 号が未着です。46 号以降をまとめます。

黄熱。ベルギー - 。輸入例。アフリカ・ガンビアで休日を過ごした女性。11 月 8 日発病し、現在経過良好。旅行前、黄熱ワクチンは接種されていなかった。

インフルエンザ。00 年 - 01 年 9 月の世界の流行状況：北半球における発生はアフリカ地区とアメリカ地区以外は小規模であった。インフル A (H1N1) に B 型の混合流行で A (H3N2) は小規模発生であった (世界各地の一覧表あり)。

ポリオ。世界の状況：本年 11 月までの届出状況。ポリオ様急性弛緩性麻痺の 81% が検査され、臨床診断 440 例のポリオで野生株陽性例は 250 例であった。国別の届出数の一覧。多発地区はアフリカではエチオピアとナイジェリア、中南米の発生数は減少したが東地中海地区ではアフガニスタン、パキスタン、ソマリア、スーダン、欧州地区ではほぼ消滅、東南アジアでは世界最大の発生地区のインドと例年発生が続いているバングラデシュ、ミャンマー、ネパールが目立っている (現在 01 年報告はゼロであるがウイルス検査の結果で追加報告が届くと思われる)。西太平洋地区では消滅した。

インフルエンザ。01 年 11 月：ノルウェー - 。A 型。

11 月 9 日 - 15 日届出：黄熱。ベルギー - (輸入例)。

2001 年 11 月 23 日号 (76 巻 47 号)

ポリオ。東地中海地区。00 年 1 月 - 01 年 9 月末の状況。同地区の 23 カ国中 18 カ国で根絶、ウイルスの流行は 5 カ国だけとなった。本報は 01 年のポリオ根絶計画の概略である。定期接種率：アフガニスタン (32%)、ジブチ (46%)、パキスタン (74%)、ソマリア (18%)、スーダン (65%)、イエメン (76%)。定期接種以外の地区単位の追加強化接種：キプロス、オマーン、アラブ首長国連合をのぞいて年間数回の地域単位の個別接種が実施されている。セイランズ：同地区の各国におけるポリオの発生状況のセイランズ網が 01 年にはキプロスとジブチ以外で確立された。届出状況：(国別一覧表あり) 最多はパキスタン。ソマリアとスーダンも目立っている。

ウイルス検査網：12 検査室 (国立 8 研究所、4 地区衛生研究所) が WHO などの指導で検査。検査精度は上昇している。

平成13年12月13日

愛知県感染症情報

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

宿題をいっぱい抱えたまま12月を迎えてしまいました。生来怠惰なものですから年末までに発送すべき書類をかかえてウロウロしています。ところで貴重な情報をいつも有難うございます。11月後半～12月前半のまとめをお送りします。

1.名古屋市内：名鉄病院宮津先生からは麻疹、ムンプス、水痘、溶連菌感染症が散発、伝染性紅斑あり、第一日赤有吉先生からは水痘、ムンプス、ウイルス性胃腸炎、溶連菌感染症が目立ち、細気管支炎や仮性クル-ブ、川崎病の入院が多い、三菱病院岩間先生からは感冒性嘔吐下痢症（脱水で要入院例あり）、急性喉頭炎、ムンプス、RSウイルスによる気管支炎、マイコプラズマ肺炎目立つ、中京病院柴田先生からは水痘の流行が始まり、ムンプスが時々（髄膜炎あり）、麻疹の小流行あり、マイコプラズマ肺炎がぼつぼつ、三菱病院岩間先生からは感冒性嘔吐とムンプスが目立ち胸膜炎を併発したマイコプラズマ肺炎、乳幼児のウイルス性肺炎、RSウイルスによる気管支炎あり、中京病院柴田先生からはムンプスが多く、RSウイルスやマイコプラズマによる入院がみられる、労災病院山田先生からはインフルエンザA、B、溶連菌感染症、水痘、ムンプス、嘔吐主体のウイルス性胃腸炎、RSウイルス感染症、1～2日の高熱を伴う咽頭炎、重症マイコプラズマ感染症、大同病院水野先生からは乳幼児の肺炎（要入院例目立つ）・気管支炎、年長児～学童の腹痛・嘔吐が1～2日の急性胃腸炎、ムンプス、手足口病（中枢神経系の合併症はない）が目立つとのお手紙をいただきました。

2.尾張地区：常滑市民病院上田先生からは手足口病、水痘、ムンプス、細菌性腸炎（サルモネラ、病原性大腸菌）、マイコプラズマ感染症、ロタウイルス腸炎入院例が目立つとのお手紙をいただきました。

3.三河地区：トヨタ病院木戸先生からはマイコプラズマ肺炎と下痢嘔吐症が目立つ、加茂病院梶田先生からは嘔吐主体のウイルス性胃腸炎とマイコプラズマ肺炎が多い、岡崎市民病院系洲先生からはRSウイルス感染症の細気管支炎増加、ムンプス、安城更生病院小川先生からは突然の急激な嘔吐が目立つ1～2日のウイルス性（？）胃腸炎が多い、知立市近藤先生からは水痘とムンプスが散発、ロタウイルス下痢症（要入院例目立つ）が多く小学生で嘔吐下痢症の発生あり、碧南市永井先生からは嘔吐を主症状とする胃腸炎と溶連菌感染症目立つ、豊橋宮澤先生からは溶連菌感染症、ムンプスと水痘、手足口病、感冒性胃腸炎が散発中とのお手紙をいただきました。有難うございました。